美術科学習指導案

日　時　平成２２年　１０月２８日（木）校時
場　所　美術室
学　級　３年３組（男子１９名　女子１６名　計３５名）
指導者　教諭　工藤　倫弘

１　単元名　篆刻「抽象的な形にふれる」

２　単元について

（１）　教材について

篆刻の紐に、現在の自分の心情を抽象的に表現する課題である。素材は、光沢と透明感があると同時に、柔らかく彫刻刀やニードルなどで容易に加工が出来る高麗石を使用する。

篆刻とは、中国を起源としており、主に篆書体の文字を印面に彫ることから、「篆刻」と呼ばれるものであるが、甲骨文、隷書、楷書などの様々な書体を使用したものや、図案を彫ったものも含まれ、厳密な定義はない。主な印材は、石であるが、金属や竹、骨、牙などの素材が用いられる場合もある。最近では、加工の手軽さから、篆刻用の消しゴムも存在する。

印面には、篆書体を用いて自分の氏名をデザインしたものを彫る。文字のレイアウトや、朱文と白文の構成を工夫し、自分らしい印の表現を行う。

学習指導要領の中で２，３学年の目標（２）には、「対象を深く見つめる力，感性や想像力を一層高め，独創的・総合的な見方や考え方を培い，豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。」とある。紐の表現として取り上げる抽象表現は、自己の心情をどのような形で表現するのかが大きな課題となる。抽象表現により制作された彫刻作品を鑑賞し、その形に込められた想いをそれぞれに想像させる。更に、その結果を互いに交流し合い、ひとつの形から様々な感情を読み取ることで、多様な価値に気づかせ、自己の表現の幅を広げていきたい。

１学期に自分の客観的な外見を素材として、自己の内面を表現する「自画像」に取り組んだ。本題材は、その延長線上にあるものと考えられるが、表現が具象的なものから、抽象的なものとなるため、自分の表現意図をより強く表現することが出来ると考える。

（２）　生徒について

本学級は、落ち着いて表現活動を行う姿勢が身についている。制作活動中は、私語をすることなく、それぞれに自分の作品に集中して取り組むことが出来る。

１学期に取り組んだ「自画像」の構想段階では、アイディアスケッチを描きながら自分の考えをまとめることが出来るが、より深く内面を掘り下げるというよりも、表面的な部分を強調した表現になる生徒が多かった。自分の内面を掘り下げるということへの、気恥ずかしさを感じていると思われる。

表現の技術的な面については、丁寧に制作に取り組み、時間はかかるものの完成度の高い作品を仕上げることが出来る生徒が多いが、「とりあえず完成させればいい」という考えで制作を行う生徒も一部にみられる。

これまでに取り組んだグループでの相互鑑賞は、生活班を基準として互いの作品についての考えを記述する形式で行った。真剣に互いの作品を鑑賞し、自分なりの視点を持って記述することが出来る生徒が多い。しかし、具体性に欠ける記述で済ませてしまう部分もみられる。これは、作品から受ける印象や、自分の中で感じたことを表現する方法がよく理解できていないためと考えられる。一つの作品をさまざまな視点から鑑賞し、自分だけでなく、他の考え方にも触れることで、抽象表現の幅を広げさせたい。

（3）　指導にあたって

本題材における表現のねらいは「自己の内面」をいかに掘り下げていくか、という点にある。しかし、自己の内面を自分自身で掘り下げようとしても、具体的な見方や考え方が固定化してしまっては、決まり切った表現から脱却することは難しい。そこで、いくつかの参考作品を題材に、生徒同士が互いの見方や感じ方を知ることで、多様な価値に触れさせたい。ひとつの作品について、様々なとらえ方が出来ることを知り、自分の考えの幅を広げるとこで、より深く自己の内面を掘り下げることができるように指導したい。

3　単元の目標

（1）　作品に自分の想いを込め、興味を持って最後まであきらめずに制作しようとする。
【美術への関心・意欲・態度】

（2）　参考作品から発想を広げ、計画的に構想を練る。【構想・発想の能力】

（3）　素材の特徴を理解し、道具を工夫して使用し、丁寧に石材を彫り進める。【創造的な技能】

（4）　参考作品から、作者の想い、形状の美しさを感じ取る。【鑑賞の能力】

4　指導計画（篆刻　１２時間扱い）

節	時数	学　習　内　容	評価規準			
			美術への関心・意欲・態度	構想・発想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	1	・篆刻の歴史について知る。 ・印面のアイディアを練る。	篆刻の歴史や成り立ちについて知ろうとする。	篆刻の歴史や成り立ちについて知り、自己のイメージにつなげる。	篆書体を使用し、アイディアスケッチを描く。	作例を鑑賞し、自己のイメージに生かす。
	3	・印面の制作 ・印面の図案を考え、石材を彫る。	自己のイメージをしっかりと持ち、制作に取り組む。	篆書体を用い、自己のイメージをしっかりと形にする。	印材を彫り、印面のイメージを形にする。	印面の仕上がりを確認し、修正をしながら完成に向かう。
	1	・抽象的な形にふれる。 （本時）	抽象的な彫刻作品を鑑賞し、自己のイメージを深めようとする。	参考作品から、作品に込められた想いを感じ取る。		参考作品を鑑賞し、多様な価値に触れる。
	1	・紐の構想を練る。	自己のイメージを紐の形に表現しようとする。	アイディアスケッチを描き、自己のイメージを抽象的な形で表現する。	アイディアスケッチを描き、自己のイメージを抽象的な形で表現する。	描かれたアイディアスケッチを吟味し、最も自己のイメージを表すものを選ぶ。
	5	・紐の彫刻をする。	自己のイメージを紐の形に表現しようとする。	展開図を描き、イメージを明確にする。	印材を彫り、自己のイメージを、形にする。	作品の仕上がりを確認し、修正をしながら完成へ向かう。
	1	・作品の鑑賞をする。	他者の作品を鑑賞し、その表現意図や良さを味わおうとする。			表現された形から、その形に込められた感情を読み取ろうとする。

5　本時の指導について

（1）　目標　抽象的な彫刻作品を鑑賞し、自己のイメージを深めようとする。【美術への関心・意欲・態度】
作品の形に込められた想いを感じ取り、言葉に表す。【構想・発想の能力】
参考作品を鑑賞し、多様な価値に触れる。【鑑賞の能力】

（2）　具体の評価規準

観点	A　十分満足できる	C　努力を要する 生徒への手だて
美術への関心・意欲・態度	抽象的な彫刻作品を鑑賞し、多様な視点から形に込められた意味を読み取り、自己のイメージを深めようとする。	鑑賞のポイントを具体的に例示し、形に込められた意味を読み取ることができるよう支援する。
構想・発想の能力	作品の形に込められた想いを感じ取り、自分なりの言葉に表すことが出来る。	鑑賞のポイントを示すとともに、自分の感じた内容を表現するための基礎的な用語を提示することで、自己の考えを明確にさせる。
鑑賞の能力	多様な形の捉え方を知り、主体的に鑑賞することができる。	グループ内での交流活動を中心に、抽象的な形に対する多様な捉え方にふれさせ、主体的に鑑賞することができるよう支援する。

（3）　指導の構想

紐の造形を発想する上で、抽象的な形についての理解を深めることが重要である。生徒同士が特定の形に対する考えを交流することで、抽象的な形について、決まり切った見方、とらえ方ばかりでなく、独自の観点で鑑賞することを体験させたい。

形からそこに込められた想いを感じ取るのとは逆に、いくつかの感情を表す単語を提示し、その言葉に形の特徴を当てはめて説明文を作らせる。これを交流させることにより、視点を変えることで、同じ形に対しても、様々なとらえ方が出来ることに気づかせたい。

自分の感情をテーマとした紐の制作に取り組む際、この学習を生かして、より自由に自分のイメージをふくらませて作品の形を考え出すことが出来るよう指導したい。

（4）　展　開

段階	学習活動 《学習形態》	教師の働きかけ	○指導上の留意点 ●評価の方法・観点
導入 10分	1．抽象彫刻について 具象彫刻の作品と抽象彫刻の作品を比較し、その違いを知る。 2．学習課題の設定	1．具体的な形を表現した「具象」と形の特徴を抽出したり、みることの出来ない感情などを形に表現した「抽象」の違いについて、資料を提示する。	○対照的な作例を提示し、視覚的に違いがわかりやすくする。 ○提示した「抽象作品」について、第一印象で感じたイメージを交流させる。
展開 35分	作品の形状に込められた想いを読み取ろう		
	2．参考作品を鑑賞し、その形状から感じられる感情をプリントに記入する。 （個人での取り組み）	2．プリントには、「喜・怒・哀・楽」の４つの選択肢を示し、その中から、最も適すると思うものを選び、その理由を記入させる。	○　形状の、どの部分に注目して考えるのかを明確にさせる。 ●　作品の形状に込められた想いを感じ取ろうとする 【関心・意欲・態度】 ●　作品の形状に込められた想いを感じ取ることが出来る。 【構想・発想の能力】 ●　参考作品を鑑賞し、多様な価値に触れる【鑑賞の能力】
	3．グループで交流①	3．自分が感じた感情と、そう感じた理由を具体的に発表するよう指示する。また、発表は班長から順に時計回りに行うよう指示する。	○　発表の仕方を明確にし、発表者が迷わないように留意する。 ●　他の生徒の発表を聞き、多様な捉え方に触れる。 【鑑賞の能力】
	4．参考作品とセットになった「感情を表す言葉」を組み合わせ、言葉に形の形状を当てはめて説明を考える。 （個人での取り組み）	4．同じ形でも、180 度違った感情を感じ取ることが出来ることを作例を用いて提示する。	○　３で交流した経験を生かし、多様なとらえ方を自ら実践できるようにさせる。 ●　作品の形状から、言葉につながりそうな部分を見つけようとする。 【関心・意欲・態度】 ●　作品の形状から、言葉に結びつく特徴を見つけルことが出来る。【構想・発想】
	5．グループで交流②	5．セットになった言葉に、形のどの部分を結びつけて説明を考えたのかを明確にさせる。発表方法は３と同様に行う。	●　他の生徒の発表を聞き、多様な捉え方に触れる。 【鑑賞の能力】
終結 5分	6．本時の振り返り	6．本時の振り返りを、プリントに記入させる。	